

## 早生・良質・多収の水稲糯新品種「いわともち」

滝田 正<sup>1)</sup>・山下 浩・永吉嘉文・若杉佳司・堤省一朗・川口 満吉岡秀樹・荒砂英人<sup>2)</sup>・藺田豊和<sup>3)</sup>・日高秀光・愛甲一郎<sup>3)</sup>(宮崎県総合農業試験場<sup>1)</sup> 東北農業試験場<sup>2)</sup> 東臼杵北部農業改良普及センター<sup>3)</sup> 宮崎県農政水産部)

Tadashi TAKITA, Hiroshi YAMASHITA, Yoshifumi NAGAYOSHI, Keiji WAKASUGI, Seiichiro TSUTSUMI, Mitsuru KAWAGUCHI, Hideki YOSHIOKA, Hideto ARASUNA, Toyokazu SONODA, Hidemitsu HIDAKA and Ichirou AIKOU A New Rice Cultivar "Iwatomochi"

宮崎県における糯品種は、中生の「ミヤタマモチ」と晩生の「クスタマモチ」が普及している。このうち、県西北部中山間地帯を中心に普及している「ミヤタマモチ」は、玄米千粒重が約30gと大粒のため籾摺や精米時のローラー間隔や抵抗の調整不足から割米の発生が問題となり、作付面積が1997年の289haから1998年の77haと急激に減少した。晩生の作付が可能な平坦地帯は「クスタマモチ」で対応できるもの、中山間地帯では早生から中生の糯品種に対する要望は強いものがあり、玄米千粒重が中程度で多収かつ良質の糯品種が強く要望されてきた。この要望に応える品種として、1999年に宮崎県総合農業試験場は玄米千粒重が中程度で玄米外観品質が良好で多収の水稲糯品種「いわともち」を育成した。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告する。なお、本品種の育成に関し、ご協力いただいた関係機関各位に深く謝意を表す。

## 1. 来歴および育成経過

「いわともち」は、1990年、良質で多収の糯品種育成を目標に早生・多収糯の「関東148号」(後の「モチミノリ」と中生 良質糯の「南海糯112号」を交配した組み合わせから育成した。同年冬にF<sub>1</sub>を養成し、1991年、F<sub>2</sub>およびF<sub>3</sub>世代を温室で養成、F<sub>4</sub>世代に個体選抜、以降は系統育種法により選抜と固定を図った。1994年に「み系148」の系統名で生産力検定予備試験および特性検定試験、1996年からは「南海糯140号」の地方系統名で生産力検定並びに関係県に配布し奨励品種決定試験に供試した。1999年、良質 多収であることが認められ宮崎県で奨励品種に採用された。

## 2. 特性概要

「いわともち」の特性概要を第1表に示す。稈長は「モチミノリ」と同程度で、穂長はやや短く、穂数は同程度で、耐倒伏性は同程度の「強」である。出穂期と成熟期は「モチミノリ」とほぼ同じで、育成地では、「早生の晩」に属する。いもち病抵抗性遺伝子は持たないと推定され、葉いもちと穂いもち抵抗性は「やや弱」、白葉枯病抵抗性は「やや弱」である。収量は「モチミノリ」より多く、玄米千粒重は23g程度と「モチミノリ」と同程度の「中」である。玄米品質は「モチミノリ」と同程度で、餅の食味は「上の下」である。

## 3. 地域適応性

温暖地から暖地の平坦から中山間地域に適する。奨励品種採用県の宮崎県では、県西北部の中山間地域を中心に100haの普及が見込まれ、糯米の品質向上に貢献するものと期待されている。

## 4. 栽培上の注意

いもち病に弱いので常発地域および常発田での栽培を避けるとともに、徹底防除に努める。

白葉枯病に弱いので、常発地域および常発田での栽培を避ける。

第1表 「いわともち」の特性概要

品 種 名	いわともち	モチミノリ
早 晩 性	早生の晩	早生の晩
草 型	偏穂重型	偏穂重型
出穂期(月・日)	8.16	8.15
成熟期(月・日)	9.18	9.18
稈 長(cm)	74	73
穂 長(cm)	20.9	22.7
穂数(本/m <sup>2</sup> )	342	340
芒の多少 長短	稀 短	稀 極短
ふ 先 色	褐	赤褐
脱 粒 性	難	難
穂 発 芽 性	難	やや難
耐 倒 伏 性	強	強
葉 い も ち 耐 (抵抗性遺伝子)	やや弱 (+)	(中) (Pia)
穂 い も ち 病	やや弱	(中)
白 葉 枯 病 性	やや弱	やや弱
縞 葉 枯 病	羅病性	抵抗性
玄米重(kg/a)	51.2	47.4
同上標準比率(%)	108	(100)
玄米千粒重(g)	22.7	22.3
玄米品質	3.6	3.9
食 味	上下	上下

注) 育成地における1995～'98年の標肥試験